

## 第5回 国際シンポジウム

### フランス革命研究とミシェル・ベルンシュタイン文庫

第5回国際シンポジウムは二日間にわたって開催された。インド、韓国、フランス、日本のフランス革命研究者をお招きし、本事業の核となるフランス革命史料群「ミシェル・ベルンシュタイン文庫」に関連する報告をしていただいた。ベルンシュタイン文庫の史料を用いた実証研究や、ベルンシュタイン文庫の史料的価値の分析など様々な視点から報告がなされた。全員の報告終了後、会場からの質問に答えるかたちで討論が行なわれた。

#### シンポジウム開催の記録

日時：2007年11月24日（土）・25日（日）

会場：専修大学神田校舎7号館3階 731号教室

主催：専修大学社会知性開発研究センター／歴史学研究センター

#### 1日目（11月24日）

- 14：00 開会
- 14：10～15：10 リラ・ムカジー（ハイダラバード大学）  
「新しい世紀の創造？—ベルンシュタイン文庫史料から」
- 15：20～16：20 朱明哲（韓国教員大学校）  
「テルール期の政治犯、ルイ・セバステイアン・メルシエをめぐって」
- 16：30～17：30 マリア・ベトゥレム・カステラ・ブジョルス（パリ第一大学）  
「ベルンシュタイン文庫の歴史的価値とその性格  
—『ベルンシュタイン文庫目録』第6巻の分析」

#### 2日目（11月25日）

- 10：00～11：00 近江吉明（専修大学）  
「『M・ベルンシュタイン文庫』の史料的価値とその特徴  
—オート-ロワール県、ル-ピュイ市の第三身分陳情書分析を中心に—」
- 11：20～12：30 全体討論  
司会：山崎耕一（一橋大学）
- 12：30 閉会